

48

お 名 前	性 別	満年齢	終戦時の年齢	現 住 所
鈴木 一基	男 性	72歳	6歳	富岡中部

富岡国民学校1年

① 8月15日は、どこでどんなことをしていましたか。

自宅にいました。

② 終戦のことを、どこで、どのように聞かれましたか。

よく覚えています。本堂の前で、兵隊さんといっしょにいて玉音放送を聞きました。本堂の前にガーガー鳴るラジオがあつて、兵隊や大勢の人が集まっていた。意味は分かりませんでした。兵隊さんが教えてくれました。

③ 敗戦を知らされた時の気持ちやその時の様子

まだ小さかったので、何も感じなかったと思いますが、兵隊さんが号泣されているのを見ました。なぜ泣いているのか、私には分かりませんでした。

④ 体験の中で、子どもたちに語り伝えておきたいこと

「兵隊さんも腹ぺこだった」

昭和20年になって怒部隊が富岡に駐屯していた時、洞雲寺には部隊長と付きそいの兵士が2名宿泊していました。一般の兵士は、富岡国民学校や車神社、民家などに宿泊していました。本堂の西の山に怒部隊の兵器庫があり、その建物は移築して、今は駐車場の前にあります。

そのころは親戚縁者の疎開の人も多く、11の家族が寺に寝泊まりしていました。

境内でイモ切り干しを作っていました。すると、おどろいたことに兵隊が盗みに来るのです。私が父にそのことを言うと、父は「ほっとけ、ほっとけ。腹が減っているから持たせてやればいい。」と言いました。兵隊さんも食べるものがなくてお腹をすかせていました。腹ぺこでは戦争もできないので、かわいそうだなと子ども心に思いました。

満州から引きあげてきた同級生がいました。兄弟が3、4人いましたが、食べるものがない時には、屋敷に生えているゆずをお湯と塩で煮て食べさせていました。その弟が、栄養失調で亡くなったんです。母親は、富岡では生きていけないと、東京へ出ていきました。大屋敷の伊田さん夫婦が、おにぎりを作って持たせ、見送ったそうです。その後、同級生は苦学して夜間の大学へ通い、1級建築士になりました。当時、引き揚げ者に対するいじめはひどかったんです。その家は昔の士族で、満州へ警察官として渡り、終戦後引き揚げてきた家族でした。

終戦後もしばらく怒部隊が駐留していましたが、そのころのことです。弾丸を鍋の中に入れて、火にかけると中で破裂するのです。その残った薬莢に火ばしを差し込み、加工して遊んだことを覚えています。

1979年（昭和54年）、本堂西にある福照稲荷神社を建て直したことがあります。

ます。その取り壊しの時、縁の下から、九 九式歩兵銃が10何丁か出てきました。グリスや油紙にきちんと包んでしまっていました。警察に届けましたが、まだ銃身がしっかりしていて、十分使えるものだと言っていました。

○ 富岡国民学校のこと

当時、富岡国民学校の運動場は全部サツマイモ畑で、遊ぶ場所もあまりありませんでした。運動場の片隅には、大きな防空壕がありました。空襲警報が発令された時や訓練で、何度か防空壕の中に入りました。みんなが入れるぐらい大きな防空壕でした。

1年生でも勤労奉仕がありました。真夏の炎天下で、松や檜の苗木が植えられている畑の草取りがあり、とても大変でした。高学年は作業が多かったのもっと大変だったと思います。

終戦後に、奉安殿が取り壊される時のことはよく覚えています。(昭和21～22年)とてもりっぱな奉安殿で、いつも拝礼をした尊いものが取り壊されるなんて、さみしいような気持ちになりました。



▲ 昭和6年頃の富岡尋常小学校 できたばかりのりっぱな奉安殿が見える

○ 中村メイコさんのこと

洞雲寺は、中村メイコさんととても深い関わりがあります。ご先祖の墓地在、本堂の西にある土族の墓にあります。富岡中部の墓地には、中村メイコさんが建てられたお墓があります。

※ 中村メイコさんについては、巻末の特集ページをごらんください。



▲ 現在の洞雲寺 正面が本堂